
G GENERATION CROSS WARS

siziku

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G G E N R A T I O N C R O S S W A R S

【Nコード】

N 2 6 9 7 M

【作者名】

s i z i k u

【あらすじ】

G G E N R A T I O N 二次創作試作品

基本的に短編集

何らかのコメントがあれば長編として書く

発端

「セン……チュリオ!!」

天使を思わせる輪と、翼を持った、白紫をしたMS……

バカな……何故アレがここにいる!!

しかし、それはけっして天使では無い事を彼は知っていた。

それどころか悪魔……

いや、その程度の言葉では表しきれない悪夢だ。

そしてその悪魔はその最凶の力を最大限に引き出す、終末とも言える機能を発揮しようとしていた。

自分はいい、自らが駆る“不死鳥”は悪魔から耐えるだけの能力も、破壊する事がかなう武器も備えていた。

しかし彼の仲間は違った……

仲間が駆る機体は歴史の中に生まれた試作機であり専用機であるが、“不死鳥”と違い普通のMSである。

“悪魔”の攻撃を受ければ一瞬の内に塵芥と還えされる。

ナノスキンによる修復も、パイロットの負傷まではカバー出来ない。

頭部からの出血に霞む意識の中、悪魔の一体を正面に見据えると、

機体を変形、加速させた。

「半端な覚悟じゃ、こいつはよけられないぜ!？」

その名の由来である、炎に包まれた“不死鳥”は加速する。

「悪しきものは、火と硫黄の池に……」

悪魔の羽の一枚が消え去ると、同時に一丁の大砲が現れた。

正面に覗く2つの銃口からビーム、実体弾が次々に火を吹き、“不死鳥”の装甲を砕き、その足を止める。

「刈り取りましょう、葡萄の房を刈り取るように……」

手から大砲が消え去ると次に現れたのは幻想的な光を放つ巨剣。

身動きの取れぬ不死鳥目掛け一直線に翔る悪魔……

直後に放たれた光は不死鳥の死を告げるものか、世界の終わりを告げるものか……

追憶

「……これで全てか…？」

艦隊指令であるブライト大佐が戦場を見回して言う。

戦場を埋め尽くしていたセンチュリオは全て掃討されていた。

本当にこれで終わりなのか……？

俺は不安感が拭えなかった……

心の奥にこびり付いて離れない恐怖が、不安となって残るだけだ。

無理にそう思う事で自身を納得させようとした時、一つの違和感に気付いた。

コンソールの一つに飛び付くと戦闘開始からの画像データを呼び出して行く。

アウジリス強化型、レガートウス、コンスラーレ……

やはり……！！

まだ、終わっていない……！！

「ブライト大佐！！ まだだ！！

今の戦いにインペラトルは何処にも居なかった……！！」

「何、どういう事だ!?!」

シヤア、いや。クワトロ大尉がフルアーマー百式から叫ぶ。

「インペラトールはレギオンの……延いてはセンチュリオの中枢だ
!?!」

あれが出て来て無いと言うと即ちは……」

監視モニターに光る何か……」

それは新たなセンチュリオ達の到着を告げるものだった。

そして、多数のレギオンの中心にいる機体。

それは……かつて自分が駆っていた紅き不死鳥だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2697m/>

G GENERATION CROSS WARS

2010年10月13日11時27分発行